

(D) 読書傾向

分類別	館別	会津若松分館			平分館	白河分館	相馬分館	田島分館	計	比率
		本館	郡山分館	分館						
総計	記	5	45	13	56	75	7	8	209	1.6
哲	学	14	118	28	36	106	32	15	349	2.7
歴	史	23	326	61	43	92	39	32	616	4.7
社	会 科 学	22	403	113	58	100	57	52	805	6.3
自	然 科 学	8	121	12	11	27	26	24	229	1.8
工	業 学	4	58	23	12	90	23	1	211	1.6
産	業 学	8	54	17	16	23	13	37	168	1.4
芸	術 学	21	133	12	18	55	19	25	283	2.3
語	学	4	53	6	7	9	10	5	94	0.7
文	学	852	3,179	1,221	1,185	1,529	1,595	320	9,881	76.9
計		961	4,490	1,506	1,442	2,106	1,821	519	12,845	100.0

3 青少年巡回文庫について

この文庫も今年度で7年目を迎えたわけだが、その成果において、とかく批判されがちであり、文部省においても一時は文庫補助金見送りをほのめかしたこともあった。しかし全国図書館界の要望によって従前通り補助金を継続交付することに決定をみた次第である

そこで、本館でもこの文庫の利用を高めるために昨年度から運営方針を根本的に立て直し、県下の4地区（両沼、双葉、石川、東白川）を主なる対象に、文庫重点奉仕主義の体制を整えて積極的な運営を実施した。まず、この文庫の利用団体にとって、最大のガンともいわれる、文庫輸送、回収問題を充分検討し、従来のあなた任せのやり方を改め、本館のブックモビールを活用し、それぞれの地域の公民館まで送り届け、回収も本館で行なうようにして利用団体の時間的、経済的負担の軽減をはかったので、利用団体からこの文庫は歓迎されるきざしが見えはじめてきている。

(1) 青少年巡回文庫配布状況（別表3参照）

今年度の文庫配布状況は、箱数、冊数とも昨年度とほぼ同様で、図書の内容については大幅な改善を施した。新刊書による更新も、596冊を数え、図書の内容については利用者の要望を汲みとり、教養書のみでこころいせず、文学書を相当編入して文庫編成を行ない、県教委事務局出張所社会教育担当主事と協議の上ブックモビールを利用し、地区公民館、あるいは部落公民館の手元まで送り届け、利用者と直接文庫利用についての話をしながら文庫の配布を完了した。特に両沼地区では、この文庫の効果的な利用普及をはかるため、県立図書館と県教委事務局出張所及び文庫利用関係者の3者が会合し、研究集会を開いて文庫運営上の問題点を持ちより、熱心に討議を交わしその話合の中から最善の方法を見つけ出す方式を実施していることは注目に値する。このように文庫に関心を示して

きたことは、文庫の将来の発展が期待されるものとみてよいのではなからうか。

(2) 青少年巡回文庫の図書はどのように新刊書を更新したか。（別表4参照）

この文庫の更新については、従来までの読書傾向と利用状況からみて、あまりにも文部省の選定基準にこころいし、とかく教養書にウエイトをもたせたきらいがあったので、本県では別表に示すように文学書に主体をおき社会科学、地誌、農業関係書の順に更新をして利用者の要望に副うように努めた。

別表3 青少年巡回文庫配布状況

県教育委員会事務局出張所別	配置文庫数	配置図書冊数
両沼	30	854
東白川	15	428
石川	15	441
双葉	30	891
計	90	2,614

別表4 青少年巡回文庫用更新図書分類別内訳表

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
冊数	12	11	34	68	16	13	33	10	12	387	596

4 読書グループの育成

図書館活動を展開する手段の一つに、読み仲間的な読書形態の組織をふやすという最重要な仕事がある。いわゆる集団読書による効果は大きく、読書普及にも役立つばかりでなく、地域文化の向上、生活改善、産業振興までもに蔭の力となっている。

そこで本館でもこの点を重視し努力目標にとりあげている。この読書会と名のつく集団が県下にどの位あるかを調査した結果は、別表5のとおりである。一般